食品･飼料･環境検査キット ＜きっとセーフ＞ シリーズ

遺伝子組換え検査 GMO コーン シリーズ

ELISA 法による遺伝子組換えコーンの定量検査

ELISA 法定量検査用＜GMO＞コーンキットシリーズは、代表的な遺伝子組換えコーンを定量検査できます。試料が原料コーン、Toasted Meal などに限定されるものの、感度精度とも PCR 法と同等以上の検査を自施設内で簡単に行うことができます。PCR 法と異なりおおがかりな機器／施設や高度技術者を必要としないため、より現実的に利用しうる定量検査方法といえます。遺伝子組換により発現する特定のタンパクを、抗原抗体反応を利用して測定します。

これらの製品は、Strategic Diagnostics Inc.社が遺伝子組換え作物のメーカーと提携して開発したもので、ELISA キットとしては、事実上の世界標準キットといえます。
また Bt9 コーンキットは、未承認の遺伝子組換えコーンスターリンク用で、簡単な操作で1時間 30 分以内に 0.0175%の高感度に定量できるため、飼料検査では標準的な方法となっています。

製造：Strategic Diagnositcs Inc.社

	遺伝子組換えコーン検査 ＜GMO＞ シリーズ	
品名 コードNo 価格･仕様	＜GMO＞Bt9 コーンキット (1413M) 96 ウェル 90,000 円	StarLink (CBH-351) コーンに発現する Cry9C タンパクを検出するもので、原料コーン、粉、コーンミール中におけるスターリンクコーンの混入率を 0.0075-0.1%の範囲で定量します。
キット内容	抗体固着マイクロプレート (96 ウェル＝12 連×8) 、酵素複合体液、発色基質液、反応停止液、抽出バッファー濃縮液、プレートシーラー 定量用参照標準 (0%、0.0075%、0.025%、0.1% 抽出液＝混入率スターリンク CBH351 基準)	
	＜GMO＞Bt1 コーンキット (1412M) 96 ウェル 90,000 円 Cry1(b)タンパクを検出 (Yeild Gard (MON810) などの Bt コーン)	Yield Gard(MON810) コーンなどに発現する Cry1Ab タンパクを検出するもので、原料コーン、粉、コーンミール、グリッツ、グルテン中などにおける Yield Gard の混入率を 0.15-2.0% (MON810 基準)の範囲で定量します。
	抗体固着マイクロプレート (96 ウェル＝12 連×8) 、酵素複合体液 (1 ないし 2) 、発色基質液、反応停止液、抽出バッファー濃縮液、プレートシーラー 定量用参照標準 (0%、0.15%、0.5%、2.0% コーンフラワー＝混入率 YieldGard MON810 基準)	
目的･用途	原料コーン、粉、コーンミール、グリッツ、グルテンなどにおける遺伝子組換えコーン各種のスクリーニング、定量検査。	
原理と 検出限界	サンドイッチ式ＥＬＩＳＡ法 Bt9 コーンキット：0.0075%＝StarLink (CBH351) Bt1 コーンキット：0.15%＝YieldGard (MON810)	
所要時間 保存条件	Bt9 キット： 前処理：約 30 分間、キット操作：約１．５時間 Bt1 キット： 前処理：約 30 分間、キット操作：約３．５時間 ２～８℃、暗所冷蔵	



本品は食品衛生･環境等に関わる自主検査用キットであり、臨床検査等診断に用いることはできません。　必ず取扱説明書等をご覧頂き、使用･保管･廃棄等の方法には充分ご注意下さい。　なお、価格･仕様など、内容を予告無く変更する場合があります。

アヅマックス株式会社　http://www.azmax.co.jp/　E-mail:sales@azmax.co.jp
東京営業所 〒104-0032 東京都中央区八丁堀 1-10-7 Tel 03-5543-1630 Ｆａｘ 03-5543-0312

	キット、バージョンにより異なります。また、予告なく仕様変更される場合があります。ご使用前に、必ずキット取扱説明書でご確認下さい。 ＜GMO＞Bt9 コーンキットの場合
前処理	①試料を破砕、ふるいにかける。 ②バッファーと混合し、高速振とうによる抽出と静置を繰り返し、遠心分離して上清をとる。
操作	①各ウェルに酵素複合体液と、試料抽出液ないし標準抽出液 100µL を滴下する。 ② 室温で 1 時間インキュベート。ウェル内の液を廃棄後、調製済バッファーで 4 度洗浄。 ③各ウェルに発色液を 100µL ずつ滴下して振とうする。 ④ 室温で 10 分間インキュベート。 ⑤各ウェルに反応停止液を 100µL ずつ滴下して振とうする。 ⑥吸光度 (450nm 波長) を測定する。 標準の吸光度から検量線をとり、試料の濃度を換算定量します。 ＜GMO＞Bt1 コーンキットの場合
前処理	①試料を破砕、ふるい (40US メッシュ) にかける。 ②バッファーと混合、高速振とう抽出し、遠心分離後、上清をとる。 (グルテン試料の場合はさらに希釈)
操作	①各ウェルに試料抽出液ないし標準抽出液 100µL を滴下する。 ② 室温で 1 時間インキュベート。ウェル内の液を廃棄後、調製済バッファーで 4 度洗浄。 ③各ウェルに酵素複合体液1を 100µL ずつ滴下して振とうする。 ④ 室温で 1 時間インキュベート。ウェル内の液を廃棄後、調製済バッファーで 4 度洗浄。 ⑤各ウェルに酵素複合体液2を 100µL ずつ滴下して振とうする。 ⑥ 室温で 45 分間インキュベート。ウェル内の液を廃棄後、調製済バッファーで 4 度洗浄。 ⑦各ウェルに発色液を 100µL ずつ滴下して振とうする。 ⑧ 室温で 20 分間インキュベート。 ⑨各ウェルに反応停止液を 100µL ずつ滴下して振とうする。 ⑩吸光度 (450nm 波長) を測定する。 標準の吸光度から検量線をとり、試料の濃度を換算定量します。
その他必要 機器 試薬	＜GMO＞大豆キット向け高速破砕器 (推奨) BLIXER 3B-GMS (14R7M) 390,000 円 同予備波刃 (14R8M) 23,000 円 同予備容器 (14R9M) 62,000 円 同予備フタ (14R9MF) 19,000 円 ハンドルスクレーパー (オプション) (14R9MHS)30,000 円 はかり、ふるい、高速振とう器、ミニ試験管、 マイクロピペット、マイクロプレートリーダー(450nm)

本品は食品衛生･環境等に関わる自主検査用キットであり、臨床検査等診断に用いることはできません。 必ず取扱説明書等をご覧頂き、使用･保管･廃棄等の方法には充分ご注意下さい。 なお、価格･仕様など、内容を予告無く変更する場合があります。

アヅマックス株式会社 http://www.azmax.co.jp/ E-mail:sales@azmax.co.jp
東京営業所 〒104-0032 東京都中央区八丁堀 1-10-7 Tel 03-5543-1630 Fax 03-5543-0312